

### Ⅲ 教育施策の重点事業


#### ○ 学校教育

重点事業No.	事業名
1	小・中学校学力・生活実態調査事業
2-1	小学校くるめ学力アップ推進事業
2-2	中学校くるめ学力アップ推進事業
3	小・中学校特別支援教育支援員活用事業
4	発達障害支援事業
5	外国語指導助手活用事業
6	小・中学校英語教育充実事業
7	教育ICT活用事業
8	外国人等児童生徒サポート事業
9	教育支援総合対策事業
10	小学校不登校対応総合推進事業
11	中学校不登校対応総合推進事業
12	教育支援教室らるご久留米運営事業
13-1	スクールカウンセラー活用事業（小・特別支援学校・高校）
13-2	スクールカウンセラー活用事業（中学校）
14	スクールソーシャルワーカー活用事業
15	学校施設の整備充実事業
16	学校施設の長寿命化事業
17	教職員研修事業
18	子どものための働き方改革推進事業
19	学校ICT環境整備事業
20	小・中学校コミュニティ・スクール推進事業
21	人権教育・啓発推進事業
22	小・中・特別支援学校医療的ケア対応事業
23	未来の地域リーダー育成プログラム事業

○ 社会教育

重点事業No.	事業名
24	地域生涯学習振興事業
25	筑後国府跡歴史公園整備事業
26	歴史ルートづくり事業
27	MICE誘致推進事業
28	市民スポーツ推進事業
29	子どもの読書環境整備事業
30	図書館整備事業

## 重点事業 1

事業名	小・中学校学力・生活実態調査事業			担当課	学校教育課
事業種別 ※以下から選択 (新規・拡充・継続)	継続	事業費	R4 決算	R5 予算	R6 予算
			16,909 千円	16,909 千円	16,909 千円
事業目的	児童生徒の学力・生活実態を把握し、それに基づく指導方法の工夫改善を行うことで、教職員の指導力の向上を図るとともに児童生徒の学力の向上を目指す。				
事業内容	<p>(1) 小学校及び中学校において、学力・生活実態調査を行う。</p> <p>○小学校 (R6.4) 第2～4学年 国語・算数・質問紙</p> <p>○中学校 (R6.4) 第1学年 国語・数学・質問紙 第2学年 国語・数学・英語・質問紙</p> <p>(2) 調査結果をもとに、各学校の学力向上の取組の見直し及び授業改善、保護者・地域への基本的な生活習慣・学習習慣確立のための協力依頼を行う。</p>				
	<div style="text-align: center;">  <p><b>学力実態調査事業</b></p> <p>標準学力検査の実施</p> <p>【小学校】 2～4年 国語・算数 【中学校】 1年：国語・数学 2年：国語・数学・英語</p> <p>生活実態調査の実施</p> <p>学習状況や生活習慣等(例) ・授業以外の学習時間 ・授業が分かる ・朝食を摂る</p> <p>学力等の現状把握と分析</p> <p>○学力及び生活習慣等の現状把握 ○課題とその要因の分析 ○学力向上に向けた方策の検討</p> <p>各学校におけるプランの策定</p> <p><b>「つくる力」「つなぐ力」「つらぬく力」の育成</b></p> <p>学習習慣の定着 (家庭・地域との協働) → ○学びをつなぐ授業 ○楽しい学校 ○協働する家庭・学校・地域 ← 教員の指導力向上 (日常的な授業改善)</p> <p>学力基盤づくり (補充学習や少人数授業等の実施)</p> </div>				
事業目標 成果指標	調査対象学年における質問紙「授業がよく分かる」に対する肯定的回答の割合が増加する。	区分	R4 実績	R5 実績	R6 目標値
		小2	87.7	87.9	それぞれの回答の割合が増加
		小3	87.0	86.8	
		小4	91.2	90.7	
		中1	80.9	88.7	
		中2	75.3	79.7	

## 重点事業 2-1

事業名	小学校くるめ学力アップ推進事業			担当課	学校教育課
事業種別 ※以下から選択 (新規・拡充・継続)	継続	事業費	R4 決算	R5 予算	R6 予算
			3,577 千円	4,100 千円	3,800 千円
事業目的	<p>児童の学力の保障と向上を目指し、基礎的・基本的な学習内容の確実な習得や学習習慣の定着を図る学習指導、非認知能力の育成等をもとに学力向上を図る特色ある教育実践、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を推進する。</p>				
事業内容	<p>① 全小学校に対して学生、地域ボランティアを派遣することで、児童の基礎的・基本的な学習内容と学習習慣を定着させる。</p> <p>② 校長のリーダーシップのもと、非認知能力の育成等を基盤として、児童の基礎的・基本的な知識・技能の習得及び知識・技能を活用し問題を解決するための思考力・判断力・表現力を育成し、学びに向かう力を涵養する特色ある教育を支援することで、児童の学力を向上させる。</p> <p>③ 学校現場で生かせる研究実践についての知見を有する学識経験者を市教育委員会のシンクタンクとして招聘することで、全小学校の代表が集まる研修会での講話、学校の実践に対する指導・助言、市教育委員会への指導・助言を行う研修会を実施し、全小学校において理論が裏付けられた説得力のある実践を推進する。</p>				
	<div style="text-align: center;"> <p><b>久留米市の児童の学力の保障と向上</b></p> <p><b>小学校くるめ学力アップ推進事業</b></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 30%;"> <p><b>基礎基本と学習習慣の定着</b></p> <p>全小学校に対して学生、地域ボランティアを派遣 (旅費、保険料、消耗品費等の負担)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 30%;"> <p><b>特色ある教育実践指定</b></p> <p>非認知能力の育成等を基盤に知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力の育成、学びに向かう力を涵養する特色ある教育を支援</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 30%;"> <p><b>教育シンクタンク招聘</b></p> <p>全小学校の代表が集まる研修会での講話、学校の実践や市教育委員会に対する指導助言を行う研修会を実施するシンクタンクを招聘</p> </div> </div> </div>				
事業目標 成果指標	<p>県学力調査（小5）において県を100とした場合の得点率（標準化得点）、全国学力・学習状況調査（小6）において全国を100とした場合の得点率（標準化得点）が上昇する。</p>	教科区分	R4 実績	R5 実績	R6 目標値
		県学力調査 小5 国語	92.9	92.9	標準化得点が100以上
		県学力調査 小5 算数	94.8	90.1	
		全国学力調査 小6 国語	96.7	98.9	
		全国学力調査 小6 算数	98.2	99.0	

## 重点事業 2-2

事業名	中学校くるめ学力アップ推進事業			担当課	学校教育課		
事業種別 ※以下から選択 (新規・拡充・継続)	継続	事業費	R4 決算	R5 予算	R6 予算		
			1,792 千円	5,596 千円	5,282 千円		
事業目的	生徒の学力向上を目指し、学校における授業改善を促し、生徒の基礎的・基本的な学習内容の確実な習得と学習習慣の定着を図る。						
事業内容	<p>① 放課後学習会等を支援するために、学生及び地域から学習ボランティアを募り、各中学校に派遣する。</p> <p>② 校長のリーダーシップのもと、学校の伝統や強みを活かした取組を主体的に行う学校を公募で指定し、学力向上につながる特色ある教育を実践する。</p> <p>③ 理論に裏打ちされた説得力のある実践を進めるため、学校現場で活かせる研究実践を行う学識経験者を市教育委員会のシンクタンクとして招聘する。</p>						
	<div style="text-align: center;"> <p><b>久留米市教育シンクタンク</b></p> <p><b>中学校くるめ学力アップ推進事業</b></p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; width: 30%;"> <p><b>学習習慣定着事業</b> 学生や地域のボランティアを派遣し補充学習を実施（全10校）</p> </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; width: 30%;"> <p><b>放課後学習会</b> 学習コーディネーターや学習指導員を配置し、放課後等に補充学習を実施（全7校）</p> </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; width: 30%;"> <p><b>特色ある教育実践指定校</b> 特色ある教育実践指定校の教育実践（2校）</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px; border: 1px dashed gray; padding: 5px;"> <p>学習内容の習得・学習習慣の定着 学力向上への企画・推進 組織体制の確立・人材育成</p> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> <div style="display: inline-block; background-color: #FFC0CB; padding: 5px; margin: 0 10px;"><b>確かな学力の育成</b></div> </div>						
事業目標 成果指標	県学力調査(中1・2)と全国学力・学習状況調査(中3)において、県を100とした場合の得点率(標準化得点)が上昇する。	学年	R4 実績		R5 実績		R6 目標値
			国	数	国	数	
		中1	94.8	95.5	93.2	94.1	標準化得点が前回より上昇する。
		中2	93.9	90.6	92.7	93.2	
中3	97.1	94.0	91.4	88.2			

### 重点事業 3

事業名	小・中学校特別支援教育支援員活用事業			担当課	学校教育課
事業種別 ※以下から選択 (新規・拡充・継続)	拡充	事業費	R4 決算	R5 予算	R6 予算
			107,070 千円	131,498 千円	159,609 千円
事業目的	通常学級及び特別支援学級に在籍する教育上特別な支援を必要とする児童生徒がより良い学校生活を送ることができるよう、特別支援教育支援員を小中学校に配置する。				
事業内容	<p>① 特別支援教育支援員を学校に配置し、教育上特別な支援を必要とする児童生徒に対して、学習活動のサポートなどを行う。また、授業中に教室を離れる児童生徒の居場所の確認や安全確保、肢体不自由のある児童生徒の移動介助、児童生徒の感情の高ぶりを落ち着かせる支援等を行う。</p> <p>② 特別支援教育支援員の役割や障害種別の特性理解について、講話等による研修を行い、個別の支援の充実を図る。</p>				
事業目標 成果指標	特別支援教育支援員研修会を受講した支援員の研修内容への満足度の維持	R4 実績	R5 実績	R6 目標値	
		100%	100%	100%	

## 重点事業 4

事業名	発達障害支援事業			担当課	学校教育課
事業種別 ※以下から選択 (新規・拡充・継続)	継続	事業費	R4 決算 2,890 千円	R5 予算 4,510 千円	R6 予算 4,492 千円
事業目的	発達障害を有する児童生徒に対する効果的・総合的な支援体制を整備する。				
事業内容	<p>① 子ども発達相談教室の設置</p> <p>子ども発達相談教室を設置し、小学校に在籍する児童を対象にした相談への対応や関係機関とのコーディネートを行う。</p> <p>また、通常の学級に在籍し、『幼児期に幼児教育研究所で支援を受けていた新1年生』『その他の療育施設に通所しており、就学相談を受けていた新1年生』を対象に、幼児教育研究所医師と学校教育課指導主事によるフォロー訪問を実施し、切れ目のない支援の充実を図る。</p> <p>② くるめサマー・トリートメント・プログラム（STP）の支援</p> <p>ADHDのある子どもへの包括的な治療プログラムである「くるめSTP」事業の運営補助を行う。</p>				
事業目標	子ども発達相談教室の相談		R4 実績	R5 実績	R6 目標値
成果指標	件数（45 件以上）の増加		56 件	60 件	55 件以上

## 重点事業5

事業名	外国語指導助手活用事業			担当課	学校教育課
事業種別 ※以下から選択 (新規・拡充・継続)	継続	事業費	R4 決算	R5 予算	R6 予算
			73,083 千円	73,083 千円	89,398 千円
事業目的	<p>小学校外国語活動・外国語科と中学校の外国語科との円滑な接続を目指すとともに、外国語教育の充実を図り、外国語によるコミュニケーション能力の基礎や素地の育成を図る。</p>				
事業内容	<p>① 中学校の全学年全学級に対し、外国語の年間授業時間 140 時間のうち 25 時間以上ALTを派遣する。</p> <p>② 小学校3～4年に対し、外国語活動の年間授業時間 35 時間のうち 10 時間以上、小学校5～6年に対し、外国語の年間授業時間 70 時間のうち 28 時間以上ALTを派遣する。</p> <p>③ 特色ある教育実践指定校に対して、上記以上の時数及び学校が求める教科・領域等を実施する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">小・中学校外国語指導助手活用事業</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #ffffcc; text-align: center;">                     外国語指導助手 (ALT) の派遣                 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #e6f2ff;">                     中学校の外国語科担当教員との外国語科の授業、小学校中高学年の担任との外国語活動及び外国語科の授業、校内研修等の講師、児童生徒への補充指導                 </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: center; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #ffe4b5; text-align: center;">                     小学校 中学校 特別支援学校                 </div> <div style="margin: 0 10px;">↓</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #e6ffe6;"> <p><b>【小学校の外国語科・外国語活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 3・4年の各学級で年間授業時数 35H に対して 10H 以上派遣</li> <li>○ 5・6年の各学級で年間授業時数 70H に対して 28H 以上派遣</li> <li>○ 特色ある教育実践指定校に対して上記以上の時数及び学校が求める他教科・領域等の授業</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #e6ffe6;"> <p><b>【中学校の外国語科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1～3年の各学級で、外国語科年間 140H に対して 25H 以上派遣</li> </ul> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  連携                 </div> </div>				



## 重点事業 6

事業名	小・中学校英語教育充実事業			担当課	学校教育課	
事業種別 ※以下から選択 (新規・拡充・継続)	継続	事業費	R4 決算	R5 予算	R6 予算	
			11,517 千円	13,319 千円	14,251 千円	
事業目的	生徒の英語運用能力の向上を図るため、4技能（読む、聞く、書く、話す）を測定するスコア型検定を実施し、その結果を授業改善に活かすための取組を行う。					
事業内容	<p>① 中学校2年生を対象に、4技能（読む、聞く、書く、話す）を測る調査（GTEC 検定）を実施する。また、この調査結果を授業改善に生かすため、生徒の英語力向上に向けた取組を提案する。</p> <p>② 研修等を通して、外国語教育における小学校と中学校の連携を図り、校種間のスムーズな接続を図る。</p>					
事業目標 成果指標	英語教育実施状況調査で、「英語の授業中、生徒が半分以上の時間を言語活動している」割合が、前年より増加する。	R4 実績		R5 実績		R6 目標値
		小学校 中学校	90.9% 66.7%	小学校 中学校	97.5% 63.0%	割合が前年より増加する。

## 重点事業 7

事業名	教育 ICT 活用事業			担当課	教育 ICT 推進課
事業種別 ※以下から選択 (新規・拡充・継続)	拡充	事業費	R4 決算	R5 予算	R6 予算
			268,304 千円	242,808 千円	293,677 千円
事業目的	<p>国のGIGAスクール構想に基づき、各学校に整備したコンピュータ端末や校内情報通信ネットワーク等のICT環境の効果的な活用を推進し、個別最適な学びと協働的な学びを実施することによって、教育の質の向上を図り、児童生徒の資質・能力の育成に努める。</p>				
事業内容	<p><b>1 ICT 環境の運用保守及び拡充</b></p> <p>(1) 専門業者等による ICT 環境の運用保守</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ヘルプデスクの設置、情報通信ネットワーク及び端末等の運用保守</li> <li>○1人1アカウントの管理運用</li> </ul> <p>(2) 情報通信ネットワーク・端末の拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○普通教室及び特別教室の Wi-Fi 環境の拡充</li> <li>○データ回線の強化</li> <li>○授業支援ソフト・学習ドリルソフトの活用</li> <li>○印刷環境など ICT 関連環境(機器)の充実</li> </ul> <p><b>2 学校支援・活用促進</b></p> <p>(1) ICT 活用に係る推進体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○校内情報管理者、ICT 活用コーディネーター、ICT 推進リーダー、ICT 支援員の配置</li> <li>○ICT 推進リーダー連絡協議会等の設置や各担当者への研修の実施</li> <li>○デジタル採点ソフトの導入、デジタル教材等の共有や各種サポートの実施</li> </ul> <p>(2) くるめ GIGA スクール推進協議会の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ICT モデル校事業 (先進的な実践事例の構築・発信、共通教材作成等)</li> <li>○Google 社と連携した職員研修、資格取得促進</li> <li>○デジタル教材など教育 ICT 環境に係る検討・情報共有</li> </ul> <p>(3) Google for Education パートナー自治体プログラムへの参画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ICT 活用事例校による先進的な授業実践</li> <li>○デジタルスキルトレーニング、人材交流、情報リテラシー教育の実施等</li> </ul> <p>(4) 家庭の理解促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○HP 等による情報発信</li> <li>○PTA 連絡協議会等と連携した様々な機会・媒体を活用しての情報発信</li> <li>○モバイル Wi-Fi ルーターの無償貸出</li> </ul>				
事業目標 成果指標	授業にICTを活用して指導することが「できる」「ややできる」と回答する教員の割合を70%以上にする。	R4 実績	R5 実績	R6 目標値	
		65.6%	66.5%	70.0%	

## 重点事業 8

事業名	外国人等児童生徒サポート事業			担当課	学校教育課
事業種別 ※以下から選択 (新規・拡充・継続)	拡充	事業費	R4 決算	R5 予算	R6 予算
			2,753 千円	3,556 千円	10,285 千円
事業目的	日本語が全く分からない外国人児童生徒が増加する中で、外国人等児童生徒サポーターを配置し、授業をはじめとする学校生活における支援や学校と保護者のコミュニケーションの支援を行う。				
事業内容	<p><b>【事業の目的】</b></p> <p>日本語に支援が必要な外国人等児童生徒が入学・転入をしてきた場合に、学校生活にできるだけ早く適応できるように、また、日本語による授業等の内容を理解できるように、次のような支援を行う。</p> <p><b>【事業の内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外国人等児童生徒サポーターが母国語等を使い、教科等の学習の中で使用する日本語や生活様式の違い等について説明・補助をする。</li> <li>日本語が十分にできない保護者と学校が面談等において連携できるように通訳支援を行う。</li> </ul>				
事業目標 成果指標	アンケートにおいて、「サポーター配置により、支援が充実したか」の肯定的回答の割合が前年度を上回る。	R4 実績	R5 実績	R6 目標値	
		-	-	回答の割合が前年度を上回る	

## 重点事業 9

事業名	教育支援総合対策事業			担当課	学校教育課
事業種別 ※以下から選択 (新規・拡充・継続)	継続	事業費	R4 決算	R5 予算	R6 予算
			—	6,846 千円	4,673 千円
事業目的	学校だけでは解決が困難ないじめや不登校等の様々な問題に対して、教育相談体制の充実強化を図り、一人ひとりに対するきめ細かな支援を行う。				
事業内容	<p>① 子どもの困りごとの多様化・複雑化を踏まえ、各分野の専門家からなる学校問題解決支援チームによる相談体制を確立し、学校に対し助言を行う。</p> <p>② スーパーバイズやマネジメントにより高度複雑多岐にわたる事案に組織的に対応できるよう、SCやSSWの教育相談力の強化を図る。</p> <p>③ いじめや不登校、発達障害、貧困、問題行動など多様化・複雑化する事案の増加に対応するため、スクールアドバイザーを派遣する。</p> <p>④ いじめの問題に対し、中立的な立場から重大事案の調査検証や報告を行う「いじめ等防止対策委員会」を常設する。</p> <p>⑤ 「(仮称) 久留米市不登校対応方針推進委員会」を新たに設置し、「久留米市不登校対応方針」を踏まえた、より効果的・先進的な不登校児童生徒への取組を推進する。</p>				
事業目標 成果指標	不登校児童生徒が学校内外で相談・指導を受けた割合が増加する。	R4 実績	R5 実績	R6 目標値	
		29.7%	未発表	R5 年度以下	

## 重点事業 10

事業名	小学校不登校対応総合推進事業			担当課	学校教育課
事業種別 ※以下から選択 (新規・拡充・継続)	継続	事業費	R4 決算	R5 予算	R6 予算
			14,220 千円	20,870 千円	23,647 千円
事業目的	小学校において、不登校及び不登校傾向等の児童に対する早期からの支援を充実させることで、不登校や不登校傾向等の解消を図る。				
事業内容	<p>① 不登校及び不登校傾向の早期の解消を図るため、小学校に児童支援サポーターを配置する。(R6年度は34校に配置予定)</p> <p>② 児童支援サポーターの主な役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 不登校及び不登校傾向のある児童・保護者への家庭訪問や支援</li> <li>・ 学級担任、生徒指導担当などの教職員との連携による児童への支援</li> <li>・ 民生委員・児童委員、関係機関等との連携を図ったうえでの保護者や児童への支援</li> </ul> <p>③ 児童支援サポーター研修会の実施</p> <p>児童の状況や児童支援サポーターの役割についての講話、各学校の取組の交流などを行い、支援の充実を図る。</p>				
事業目標 成果指標	児童1,000人当たりの不登校児童の割合が全国平均以下	R4 実績	R5 実績	R6 目標値	
		市 1.5 全国 1.7	市 未発表 全国 未発表	全国平均以下	